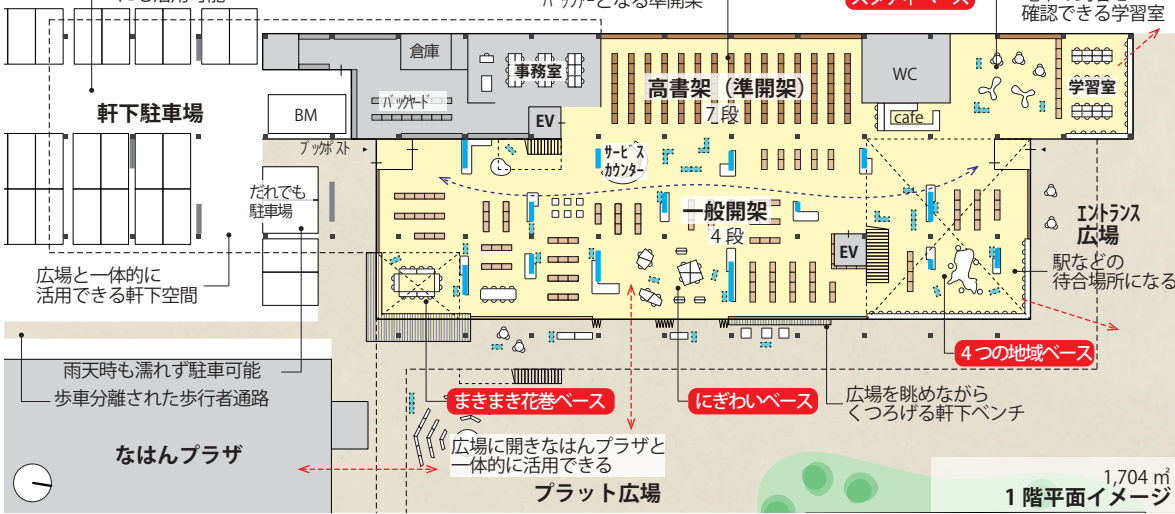
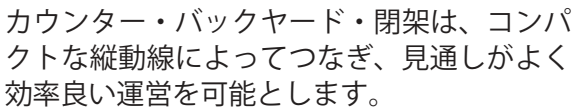
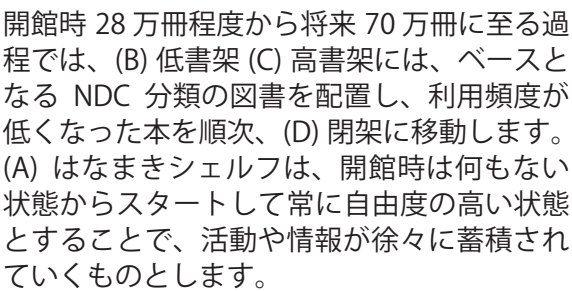
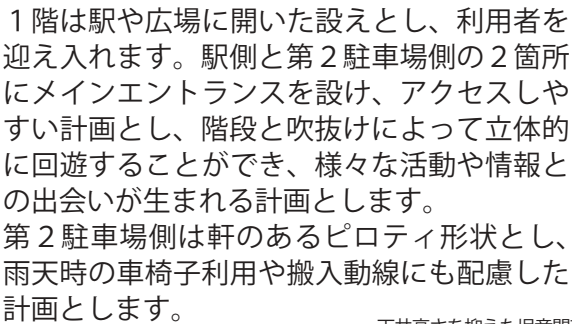
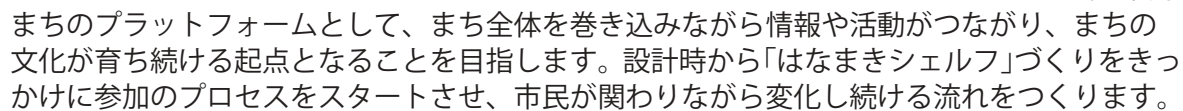
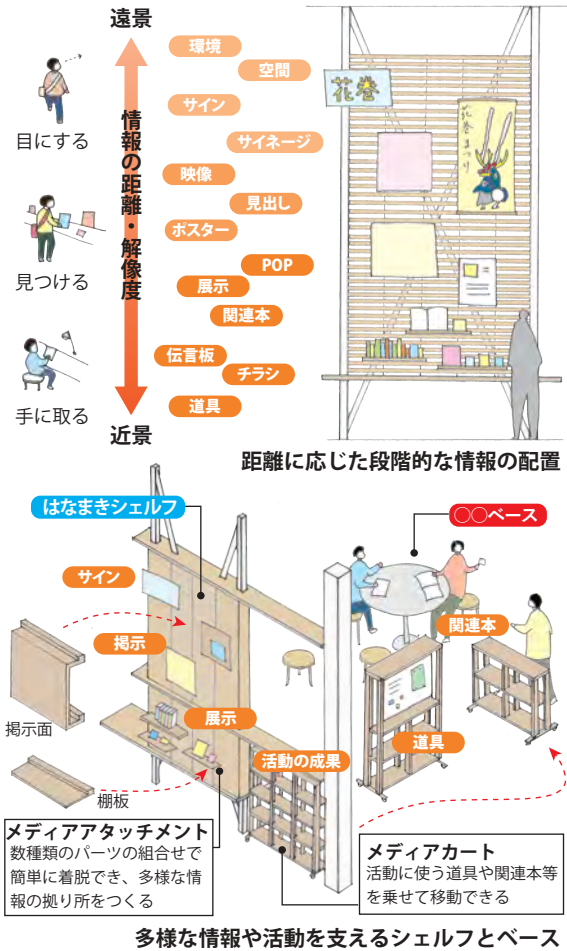


花巻市には、かつての羅須地人協会のように、誰もが自由に参加できる学びと実践の場が豊かな文化を育んできた歴史があります。現在も、「リノベーションまちづくり」によるそれぞれの生業を起点にした面的なまちづくり、「まきまき花巻」での市民ライターによる発信など、生き生きとした個々の市民活動が、まちの個性的な文化をつくるポテンシャルがあります。そこで私たちは新しい図書館を、誰もが参加できる文化的な空間「まちのプラットフォーム」と位置づけ、知の蓄積を活かしながら、まちの情報や活動をつないでいく場として提案します。



市民とともに作り、育て続ける情報空間

市民とともに情報をつくり発信する棚「はなまきシェルフ」には、高さ方向を活用して、人との距離に応じた情報を配置します。はなまきシェルフには容易に着脱できるメディアアタッチメントによって図書や展示や活動の成果等が取付きます。また、活動の記録や道具を乗せて移動するメディアカートは、「〇〇ベース」での活動をサポートします。メディアカートは、まちに持ち出して、施設外に情報発信や活動の場を拡張することも可能です。



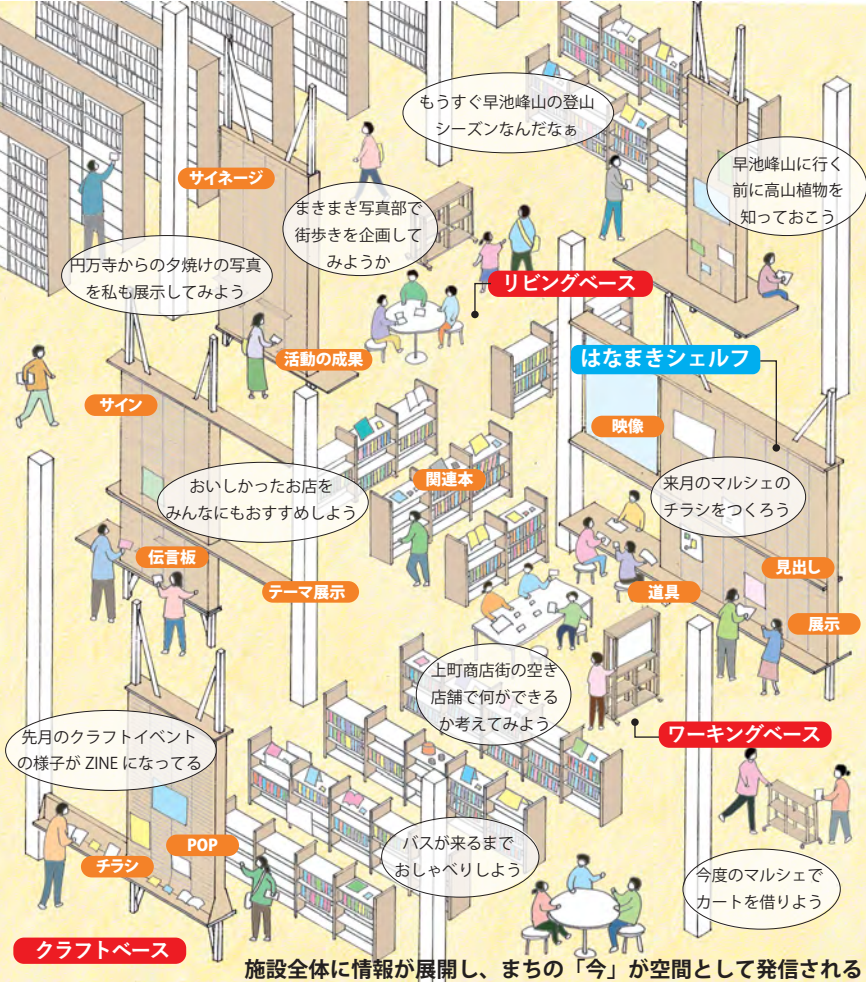
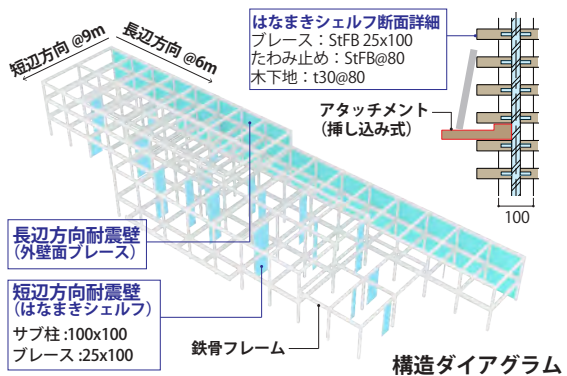
イ) 公共建築としての持続可能性

効果的な開口部の設定と高断熱化

周辺の環境特性を考慮した上で、効果的な開口部を設定した立面により開口率を 20% 以下に抑制します。また、外皮の高断熱化を徹底することで環境負荷を低減します。

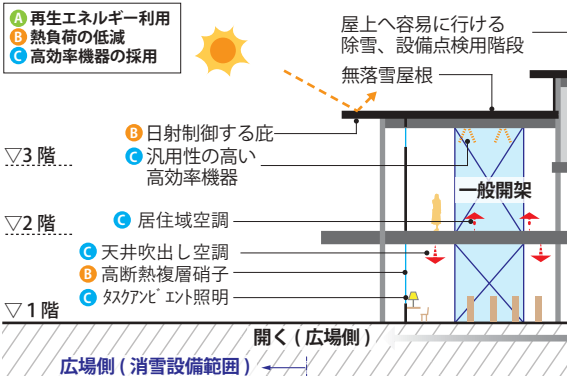
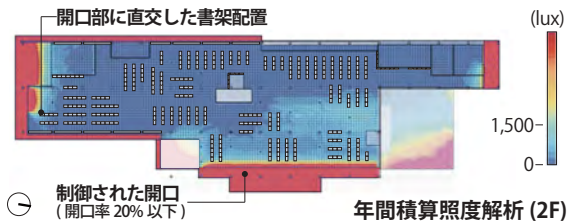
合理性と柔軟性の高い鉄骨造の採用

構造はシンプルな鉄骨耐震壁付ラーメンとします。長辺方向の耐震壁は西側外壁面とし、短辺方向の耐震壁は、はなまきシェルフ部分によって確保します。シェルフの耐震壁は地域産木材で挟んで構成し、スパンの間に適宜配置可能な柔軟性の高い計画とします。



直射光の制御と図書の日焼け防止の検証

庇の設置や開口のサイズ制御、開口と書架配置の関係等によって図書への直射光を防止します。環境シミュレーションによって、図書への年間累積平均照度が 1500lux 以下になるようにすることで本の日焼けを防止します。

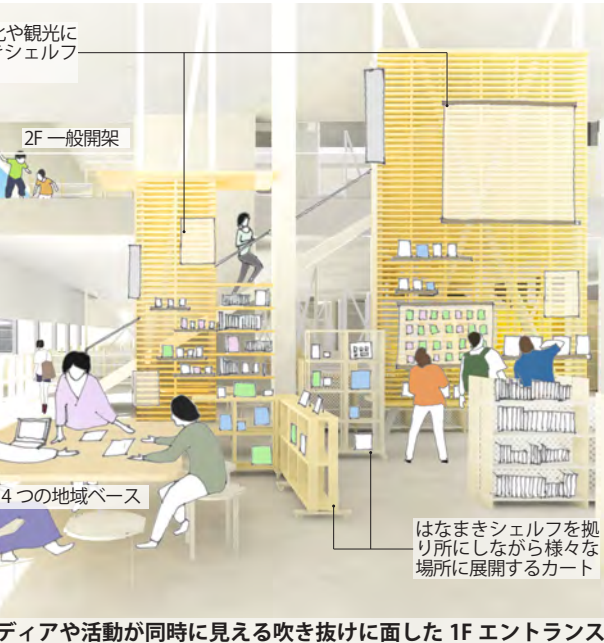


高効率な設備と再エネ活用の検討

高い外皮性能により、空調効率の高い省エネな建築を実現します。CH=3.5m の 1F は天井からの空調、CH=6.0m の 2F は床空調として適材適所の計画とします。また、太陽光パネルを設置可能な緩勾配屋根とし、省エネ基準に併せて再エネ活用も検討します。

木材活用による持続的地域循環

はなまきシェルフ・〇〇ベースを中心とした家具や内装仕上材には、地域産木材を積極的に採用し、地域資源と経済の持続的な循環を生み出します。



ウ) 敷地の活用

伸びやかに市民を迎える低層の建物

駅舎と連続し水平に広がる低層の屋根や、ボリュームの分節によって、圧迫感のない伸びやかな風景をつくります。駅側は、建物をセットバックし、利用者を迎え入れます。

広場を囲むみんなの居場所をつくる

広場を囲むように庇を架け、屋根下駐車場まで一体的な利用を可能とします。広場周囲に植栽を施し緑視率をあげながら、纏まったイベントスペースを確保します。

